

乙訓圏域障がい者自立支援協議会
平成 31年度 第5回地域生活支援拠点部会 会議録

日時 平成 31 年3月5日(火)10:00～12:00

場所 乙訓総合庁舎 第2会議室

出席者 12名

基幹相談支援センター・乙訓ひまわり園地域連携室・向日市社協障がい者地域生活支援センター・NPO 法人こらぼねっと京都・乙訓障害者支援事業所連絡協議会・乙訓若竹苑・乙訓福祉会・乙訓の障害者福祉を進める連絡会・乙訓保健所福祉室・向日市障がい者支援課・長岡京市障がい福祉課・大山崎町福祉課

欠席者 4名

キャンパス・晨光苑・京都府立向日が丘支援学校・乙訓やよい会

事務局 2名

傍聴者 1名

配布資料 ・次第

・平成 30 年度地域生活支援拠点部会 活動報告(案)

議事の流れ

1 今年度のまとめについて

(部会長)

・第5回地域生活支援拠点部会を始めます。

全体会に出す今年度のまとめの文章を事前送信させていただいています。

文章として残っていくことで次に繋がっていくので、まとめの中に必要なことはきちんと入れた形で全体会に報告としてあげたいと思います。

来年度に繋げていく議論として、前回までの話の中でこの地域生活支援拠点部会は単年度で終わるものではなくて、ここ何年かをかけて地域生活支援拠点を考えて取り組んでいく部会として設定しております。拠点にどんな機能を求めていくのかを今日の段階であげておければ、来年度以降の議論に繋がっていくと思います。案をあげていますが、あくまでもたたき台なので、それぞれの捉え方の微妙なずれ等を修正していければと思います。

※平成 30 年度地域生活支援拠点部会活動報告(案) 1 設置の目的、役割等 読み上げ

(部会長)

・ここまでは大丈夫ですか？

※平成 30 年度地域生活支援拠点部会活動報告(案) 2 昨年度までの経過 読み上げ

(部会長)

・緊急事態の時にという緊急事態という言い方を今までできていないと思います。

緊急時という言い方をできてきていると思います。

(委員)

・1行目の緊急時に対してどんな支援が必要かを考えではないですか？

こちらで緊急時と言っているので、3行目の緊急事態の時ではなく緊急時で受けるべきだと思います。

(部会長)

・そうですね。緊急時どうするのかというのは口語調なので、ここは何と書いておきますか？今までのアンケート等々の中では緊急時の支援のネットワークとか仕組みという言い方をしてきたので、それを受けておきたいと思います。

(委員)

・1個目がどんな支援が必要かを考えること、2個目が平常時からどのようなことを備えておけば良いかです。

(副部会長)

・支援のあり方で良いと思います。

(部会長)

・中心には残しますか？

(委員)

・何を中心にしているのかがわかりません。

(部会長)

・最後まで通して、加える必要があれば加えましょう。

(委員)

・機能が多いのが気になります。緊急時対応機能は別に機能がなくても良い気がします。

緊急時対応は要求されている機能なので、必要とされるでも良い気がします。

(部会長)

・緊急時対応の話をしているので、ここに等は要らない気がします。機能と等を抜きます。

(委員)

・この文章には現時点である機能がないです。

あるべきものがあって、将来的に完成図があって、今ここにしようという話をしていると思います。

(部会長)

・優先順位を付けてという話だと思います。現時点で整備すべきというのはよくわかりません。

必要もかぶります。シンプルにその機能について協議を行いました、にすることは大丈夫ですか？

(委員)

・下の3番目で受けているといえば受けているので、良い気はします。

緊急事態が発生した時のところは緊急時の対応としてで良い気がします。

(部会長)

・個人の配慮ではないので、支援者ではなくて支援事業所です。

これはここまで具体的に書いた方が良いですか？

(委員)

・配慮で柔軟に対応しているで良いと思います。

(部会長)

・今のところ、その協議の中で緊急時の対応として、支援事業所の配慮で柔軟に対応しているのが現状であることを確認しました。そこまでは良いですか？

その後のところがどう理解しておこうかと思うところで、確実に支援に繋がる仕組みづくりが求められていることが明らかとなりました。というのは何かがあった時はそれぞれその場に関わった者が対応するけれど、その後にきちんと繋がる仕組みがあるというような話が事例や議論の中であったような気がしています。それが緊急時の直ぐなのか、それとも 10 分後なのか、1 時間後なのかはともかく、一番よく言われている事例が主たる介護者である家族が利用者本人を迎え入れられない状況が起きると、日中活動している事業所が退所時間を遅らせます。そこまでは配慮ですが、その後きちんと支援に繋がっていく仕組みがあるというような議論だったと理解しています。

(委員)

・一時のことの対応は事業所が見通しをもって対応できるけれど、1 週間後、2 週間後のことをどうするのかということがよくあります。

(部会長)

・1 週間それを続けるのか。その日、その瞬間は退所時間を遅らせても良いけれど、家族が帰って来られない事態になった時に泊めるのかといたら、日中活動の事業所は泊まる機能はありません。

そこから次の支援に繋げていく側の支援がなければ繋ぎようがないので、その充実があるという話だったと思います。それをできればここに表現しておきたいです。現状であることを確認しました。までは OK ですが、その後、配慮に頼るのではなくではなく、何かがあって、確実に支援が繋がる仕組みづくりが求められていることが明らかとなりました。ということに繋がらないといけません。

(委員)

・部会長が言われたことに異論がなければ、この文章にこだわるのではなく、もう一回最初から考えた方が早い気がします。

(部会長)

・確認しました。で、一旦切って、現状の各支援者の配慮に頼るのではなく、を削除してそこに今まで言ってきた話の言葉をとると、障がいのある人本人の安心できる暮らしのためとか、日常生活の継続のために確実に支援に繋がる仕組みづくりが求められているというようなことかと思うのですが、その辺どの言葉を使えば良いですか？

(委員)

・障がいのある人が安心できる日常生活支援に繋がる仕組みづくりを求められていることが明らかになりました。障がいのある人というのに違和感があります。

(部会長)

・2 つあって、ひとつは緊急事態があったその直後の確実な支援と、それが日常になっていく、もしくは日常生活が変化していくところでの計画の見直しを含めた今、日常生活という文言で入れていく支援と 2 段階あると思います。

意見が違うかもしれませんが直後と考えたら、障がいのある人本人や家族が安心できる確実な支援に繋がる仕組

みづくり、と言うと直後になります。今言ってくれた、安心できる日常生活支援に繋がると言う、その後になります。ここで今議論していることはどちらなのか、それとも両方なのか。

(委員)

・両方です。ただし、前者に関しては今ある、何とか事業所の支援や配慮とかでやってくれている部分はあるけれど、そののシステムティックなところが必要なのは戻す方ですか？

(部会長)

・今あるのは緊急事態として対処しています。それは支援の枠組みやルールとかのところを少しはみ出したところ。それは長く続くのではなくて、その後です。

緊急時のショートがあるのか等を、そこも通常の支援とはみ出した形で無理にやっている部分があったりするので、その後に繋ぐ仕組みがいるという議論だと思います。

(委員)

・繋ぎの支援と更に先の支援。

(部会長)

・この一瞬の、電話がかかってきたという時はどうしようもないので、ちょっと待つという話です。その後、どこかで緊急ショートができますかとか、何か支援が入りますか、緊急に派遣ができますか等というようなことについての議論だと私は理解しています。

今までの生活と生活が変わっていくかもしれないところで計画の見直し等のところはもう一個入ってくるのですが。緊急時というのは3段階です。

(委員)

・発生して直ぐはその場で何とかするしかないけれど、その後、日常生活に戻るまでの間どうしますかと、日常生活に如何に繋げていきますかの3段階。

(部会長)

・ここで議論してきたことは、その真ん中の部分だと思います。もうひとつは、深夜等連絡がつかない今、今という時にどうしますかというのも、これはゼロではないのです。できることから手をつけましょうというところで議論は進んできていると思います。

夜中にどこにも連絡がつかないような事態をできるだけ起こさないという議論は過去にしてきていると思います。この時間はもう一回微調整して、次に繋げるための時間です。

(副部会長)

・ここは昨年度までの経過のところ。です。

今言っていたいていたところが全部出てくると思うので、さらっとで良いと思います。

(部会長)

・では、どうしておきますか。

(副部会長)

・中身をどこまで入れるか。

(部会長)

・昨年度の報告はありますか？

※平成 29 年度地域生活支援部会 活動報告(案) まとめ 読み上げ

(委員)

・期待しますと、検討していく必要がありますと、充分議論ができませんでしたとしてあります。

29年度こんなことをしましたという引き継ぎだけで考えるなら、そんなに大きく変えなくても良い感じはしました。もし変えるなら、もう少し具体的にこういったところを次年度に課題として残していますというような形で終わられているので、それを申し送りを受けましたみたいな形で30年度の今回の内容を入れても良いのかなと思いました。

(部会長)

・整理します。下から5行目はこの通りです。

今までの人道的な対応に頼るだけでなく、そのような対応ができる仕組みづくりが必要です。

という昨年の報告の中の言葉を持ってきて、緊急時にも確実に支援に繋がる仕組みづくりが求められていることが明らかとなりました。というので、閉めますか？

29年度は地域生活支援拠点に期待するとなっておりますが、地域生活支援拠点についての議論はしていません。ここに地域生活支援拠点という言葉を入れておかないといけませんか？

地域生活支援部会では平成28年度まで「緊急時に対してどんな支援が必要かを考え、平常時にどのようなことを備えておけばよいか」をはじめとした緊急時の支援のあり方について議論してきました。

その協議の中で、緊急時の対応として、支援事業所の配慮で、柔軟に対応しているのが現状であることを確認しました。緊急時にも確実な支援に繋がる仕組みづくりが求められていることが明らかとなりました。

これらの機能を地域生活支援拠点の機能として、地域生活支援拠点の整備に、どうですか？そこで地域生活支援拠点という話をここに入れなくても良いですか？

(委員)

・3段落目は最後の地域生活支援拠点という文言を出しておかないと、何で平成30年度は地域生活支援拠点なのかということになると思います。

ここを先程言ってくれたような受けの部分として、申し送り事項がこういう風にありましたとなるのかなと思います。

(部会長)

・2段落目をその後ろに持ってきて、平成29年度は、と書かなくて良いので、緊急時対応が必要とされる地域生活支援拠点について、どうしますか？

(委員)

・今年度の活動の概要と取り組みの内容のところの前半部分がそういった内容と重なる部分があります。ここに残した上でいくのか、これをこっちの方に入れ込んでしまうのかによっても文章が変わってくるのかなと思います。

(部会長)

・29年度にしたことを書いておかないといけません。

(委員)

・ここに地域生活支援拠点部会が発足した意味合いを入れてくれています。

(部会長)

・文章はもう一度精査して、皆さんにメールで意見をいただくとして、大枠は今の感じですが。昨年度までの経過のところは1段落目と、その次に3段落目を残して、その後地域生活支援拠点という言葉が昨年度までの経過の中に入れておくか、入れておかないかで意見をいただいて良いですか？

(副部会長)

・もっと短くしても良いのであれば、1段落目から最後は3段落目の一番最後の支援に繋がる仕組みづくりが明らかとなりました。というところで閉めても良いかもしれません。

(部会長)

・地域生活支援拠点という文言は2の中には入れない。

(委員)

・簡単にするというのであれば3段落目を行いました。それを受けて、緊急時に限らず確実に支援に繋がる仕組みづくりが求められていることが明らかとなりました。という受けで、それを30年度に持ってきたらどうですか？1段落目、2段落目を生かしておいて、確実に支援に繋がる仕組みづくりが求められていることが明らかとなりました。ということで、その明らかについて30年度受けるということであれば、緊急時に限らず確実に支援に繋がる仕組みづくりが求められていることが明らかとなりました。と、さらっと言うようにしたら良いと思います。

先程、修正を言われたそのままを使って、行っただ。その協議の中で、緊急時に限らず確実に支援に繋がる仕組みづくりが地域生活支援拠点に求められていることが明らかになったかどうか。

確実に支援に繋がる仕組みづくりの内容が、30年度これですという形で受けたらどうですか。

(部会長)

・平成29年度からは、この3行は抜くのですか？

(委員)

・1段落目と2段落目はおいておいて、3段落目に、その協議の中で緊急時に限らず確実に支援に繋がる仕組みづくりが、地域生活支援拠点に求められていることが明らかとなりました。仕組みづくりは地域生活支援拠点に求められているのですね？

(部会長)

・仕組みづくりが拠点に求められているのではなくて、仕組みの中のひとつとして拠点があります。

(委員)

・それなら、それは抜いても良いですね。

(部会長)

・もう1回言います。1段落目はそのままいきます。

平成29年度は、緊急時対応が必要とされる「地域生活支援拠点」について、現時点で整備すべき云々というのは残しますか？「地域生活支援拠点」についても協議を行いました。と、短縮しますか？

平成29年度は、緊急時対応が必要とされる「地域生活支援拠点」についても協議を行いました。

その協議の中で、緊急時の対応として、支援事業所の配慮で柔軟に対応しているのが現状であることを確認しました。緊急時に限らず確実な支援に繋がる仕組みづくりが求められていることが明らかとなりました。

ちょっと繋ぎの言葉が思うので、もう1回文章を整理して、メールでこの部分を確認してください。次にいきます。

今年度の取り組み状況は部会の日と議題です。これは次第を全部まとめたものです。

※平成30年度地域生活支援拠点部会活動報告(案)4 今年度の活動(1)概要と取り組み 読み上げ

(部会長)

・第4回目以降となっていますが、4回目しかないです。今日が5回目なので、4回目は良いと思います。少し長

い文章ですが、どうでしょうか。

(委員)

・(1)の概要と取り組みだったら、取り組みの概要ではないのですか？

(部会長)

・書式がずっとこの形なので、これできています。各部会全部合わせているので、運営委員会にあげておきます。ここを変えたら、他の部会とも揃えていけないといけません。

(委員)

・最初の方のところが重複していないですか？目的のところでも、こういう風に拠点に変えてきたと書いてあるのに、また概要のところと同じことが全体でちょっと詳しくには書いてあるとは思いますが、どうなのでしょう。

(部会長)

・発足しましたのところでは。

この1段落目は背景なのでおいておくとして、2段落目を発足しましたが設置しましたの目的のところにあるので、ここを抜きますか？2段落目の最後の文章の止め方を、具体的な「地域生活支援拠点」の機能について協議を行いましたとしたら取り組みの概要なので、発足しましたは目的のところにあるので。目的のところにも設置しましたあって、概要のところにも発足しましたとあります。ここがかぶるので、発足しましたをとって、これを受けて、障がい児者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制を構築し、地域で生活する上で必要な仕組みを考えることを前提としながら、乙訓地域の実情に応じた具体的な「地域生活支援拠点」の機能について協議を行いましたとします。

少し長いような気もしますが、取り組みの内容を他の部会の方や全体会委員に知っていただくには一定量はいるのかなと思います。

※平成30年度地域生活支援拠点部会活動報告(案) 4 今年度の活動(2)まとめ 読み上げ

(部会長)

・②は体験の機会と場所についてです。明らかにしますはまとめっぽくない気がします。

(委員)

・必要ですと言い切ったらどうですか。

(委員)

・最後のまたから始まる文章の中の各事業というのは①から③のことですか？

(部会長)

・たぶん、現行の色んなサービスのことだと思います。

(委員)

・そうなると段落が1個上がるのかと思います。

(委員)

・③についてではなくて、全体を受けてということですね。

現行の体制でもは③に入るのか、それとも全部に入るのか。

(部会長)

・1行空けますか？

要は①②③全部にかかるということをするとしたら、段落の頭なので1個下げています。

それが、丸の後の下げているのと並んでいるから③の中のように感じます。

(委員)

・前に持ってくるのもおかしな文章だから、1行空けるべきだと思います。

(委員)

・共通の課題というので、括弧書きで上に入れますか。

(委員)

・その方が誤解なく読んでもらえそうです。

(部会長)

・共通の課題と括弧書きにします。丸に合わせた形で1行入れます。この各事業というのがこの①②③のことなのか、私は一般のあらゆるサービス、生活介護も日中一時もグループホームもホームヘルプもガイドヘルプもあらゆる事業サービスの種類と量と読んでいたのですが、そこが明確になるように、どちらにしておきますか？

(委員)

・私の認識では体験の機会の場所がどれだけあるのかとか、③に関してはコールセンターをすれば例えば持ち回りなのか、どこか1ヶ所なのか、そういったところの人の確保、時間の確保、場所の確保みたいなところだったと思うので、①②③全部にかかってくるのかなと思います。

(部会長)

・現行の体制でも以下は①②③全部にかかってくる文章なのですが、その中で各事業というのがこの①②③に関わる事業のことなのか。私は勝手に①②③だけに関わらないあらゆる全部の事業、障がい福祉サービスにあるあらゆる事業全部に係ると思っていました。

でも、これが①②③の各事業ということでも違和感はありません。

(委員)

・全部に広げてしまうと、この部会としてどこまで行くのかという話になると思うので、今喫緊でやらないといけないのは①②③の話だということに落としても良いと思います。

(部会長)

・普通に読むと、この各事業は①②③になるのかなと思います。①②③の後に共通の課題という括弧を入れて、次の文章に繋がっていくということになると、この現行の体制以下の文章はこの3つに係るということになるのでOKですか。

※平成30年度地域生活支援拠点部会活動報告(案) 5 次年度の課題と方針 読み上げ

(委員)

・具体的が気になります。後者の具体的はやらねばならないことなので、前段3行目の地域生活支援拠点の具体的な機能を消したら良いと思います。

(部会長)

・地域生活支援拠点の機能について具体的に協議し、ですね。

次年度の課題と方針を何々とし、何々とし、と閉めているのが違和感があります。

(委員)

・1回、その結果をまとめますで終わりだと思います。

その内容を2市1町に提案しますと2段階だと思います。

(部会長)

・一度、読みます。

今年度の協議を踏まえ、既存の事業や機能を組み合わせた面的な整備を検討していく必要があります。平成31年度は、実現可能で継続・発展が見通せる地域生活支援拠点の機能(緊急時受入、体験の機会と場所、相談センター)について具体的に協議し、その結果をまとめます。〇〇2年度の障がい福祉計画策定に向けて乙訓2市1町に提案していくこととします。

(委員)

・結果をまとめます。またその協議内容を提案していきますというところではないですか。

(部会長)

・まとめ、ではだめですか？

(委員)

・それでもかまわないです。

(部会長)

・今直したところを副部会長のほうでもう一回文章に起こしてもらって、メールで配信します。誤字脱字も含めて、文章の通りが悪いところ等があれば意見をください。それで今年度のまとめとしたいと思いますがよろしいですか？

今後、拠点に求める機能ということと優先順位ということについて来年度に引き継いでいくことになると思います。

今までのこの一年間の取り組みの成果、結果として、生駒の事例に学びながら、この圏域では拠点を作るということよりは拠点の機能を面的な整備をしていくところで議論を進めていきたいという風に話が進んできていると思います。そこまでの確認はよろしいですか？

面的な整備をしていくことはどんな機能が必要かを明らかにして、それをどこで担っていくのか。

その担っていく事業所、事業等をどうやって繋いでいくのかというのが面的整備に繋がってくると思います。どういった機能が必要かについて、話を具体的に進めていく必要があると思います。

(委員)

・2市1町に提案しますということになっていますが、どういった形で提案されていきますか？

市長宛てにこの提案文書がいくというわけではないですよね？

(部会長)

・ではないです。

(委員)

・GMが参加して意見を言っていたのが一番良いと思います。

(部会長)

・GMは参加していますよね？

(GM)

・しています。市町の福祉計画で地域生活支援拠点についてどうしますというのがあって、例えば向日市だと国の方針や先進事例、乙訓圏域障がい者自立支援協議会での検討を踏まえ、乙訓圏域での整備に向けて取組を進めていきますという風に向日市、長岡京市は同じような文章、大山崎町は書いていないのですが、第1回の時に

長岡京市と向日市と一緒にですということで、協議会の意見を聞いた上で福祉計画で地域生活支援拠点を書きま
すということです。

協議会の意見を参考資料として2市1町に渡すということを書いていたらいと思います。

(部会長)

・別団体ではないので、誰々様宛てみたいな形の意見書ではなくて、ここで議論されたことが報告としても各委員
から上がっていくけれど、少しきちんとまとめて GM も参加している計画策定会議で提案していくというような、少し
緩やかな情報共有になっています。

(委員)

・わかりました。

(GM)

・前の福祉計画の提言も委員会等で私が説明しています。

(部会長)

・基本的に自立支援協議会での議論を踏まえてとか、議論を参考にということを各市町の障がい福祉の分野では
そうになっているはずですか？

それぞれの面的な整備ということは必要な機能を明らかにして、その機能がどういう風に繋がっていくのか、繋ぎ
のところをどうするのかという具体的に仕組みを作っていくという作業に次年度はなります。

その時に現時点でわかっている情報として、ポニーの跡地が空き地のままになっていたのが今年度ショートと計
画相談をすることという条件付きで公募がかかりました。そして、来られる事業所が決まりました。

(GM)

・京都杉の木会です。

(部会長)

・京都杉の木会、京北やまぐにの郷という京北の方で入所の事業所を長年やってこられている法人が来られ、そ
こに事業所を建築されることになったようです。まだ何も具体的なことについては公表されていません。入所施設
で24時間365日対応の事業をしてこられている事業所ということで、この圏域は入所の事業所は晨光苑しかなか
ったので、少しこの面的整備については一事業所としても協力していただけるか、もしくはこれからできるので協
力していただけるようお願いをしていくというところで、自立支援協議会としても こんなのを作ってほしいとい
うような話になっていければ良いかなというように思っています。一緒にやっていけるような形で次年度の会を進め
ていければ良いかなと思っています。

(GM)

・生駒市がショーステイを作ったのも、たまたま計画があつて、たまたま空き部屋確保を作ったというのがありまし
た。生駒市として地域生活支援拠点をやる時にそういうグループホームの計画が出て、今度の場合にもこと近
いのですがグループホームを作るかどうかはまだわかりません。

今のところ公募の条件は2つありますが、プラスアルファで何をやってくれるか、あくまで法人主体で考えられるの
で、それについて意見を言っても良いだろうし、向こうも意見を聞きたい。乙訓圏域の特徴をまだあまりご存知な
いと思うので、こちらに参加してもらって圏域の特徴も聞きながら、お互い様でやれることがあれば一番良いかなと
思います。

(部会長)

・まだわからないことはいっぱいあると思うのですが、新たに建築されていくということと、新たに乙訓に来ていただ

くということで、最初から一緒に考えていけて、他地域からの参入になるので、自立支援協議会のこの部会としても協力をしながら良いものになっていければ良いという風に考えたいと思っています。

今日、拠点に求める機能とその優先順位についての話があがっているのですが、これは次年度の初回の会議のところから進めていきたいなと思います。

(委員)

・第5回のところに拠点に求める機能とその優先順位についてと載っています。

それを受けてしまうと緊急時受け入れ、体験の機会、相談(コール)センターの場に順番になったのかと読む人がいるかなと思います。

番号がついているのですが、番号をつけないと訳がわからなくなると思います。

(部会長)

・実情に合わせて、第5回は今年度のまとめについてと情報提供にします。

(委員)

・それをすると、第4回に優先順位とあるので優先順位が決まったのかと聞かれた場合にどう答えるのか。

(委員)

・4回の時にやった、5個言われているうちの3個からいきますということは言えると思います。

もし、4回目をいらわないのであれば、体勢作りだったり専門的人材の確保ではなくて、相談、緊急時受け入れとか体験の場が先だという話になりましたという話はできるとは思います。

(GM)

・という風に文章の中にも書いているはずです。

第4回以降は優先順位をつけて行う、だから3つを選びました

(部会長)

・5つあがった中から、この3つに絞り込んだというところで4回は良いと思います。

5回は今言われたのと、実際、今日その議論はしていないので、今年度のまとめについてと情報提供というところでいったら良いと思います。

この①②③が①②③の優先順番ですかという質問がもしあれば、4回については絞り込みましたという話で、①②③のこの数字はまとめを書く上でわかりやすくするために1番目2番目ということではありませんと、質問があればそのように答えます。

今日はこれで終わりたいと思います。今年度、ありがとうございました。